

特集①

今号はまもなく開催の定期演奏会を特集します。
ゲストでお迎えするヴィオラ奏者の今井信子さんからのメッセージが届きました。



OMURA室内合奏団を設立なさった村嶋寿深子さんとは、テレビ制作者で音楽プロデューサーだった萩元晴彦さんを通じて知り合いました。村嶋さんご自身もニューヨークのブロードウェイでミュージカル女優として活躍した経歴の持ち主で、音楽家でありながらプロジェクトのオーガニゼーションが出来、現場でも姉御肌で皆を引っ張って行く頼もしい存在でした。当時から萩元さん譲りの創造性と実行力、そして粘り強さのある方でした。現在は大村で大活躍。演奏会の企画や御本の執筆など地方の文化生活を盛り上げていらっしゃるに敬意を払っています。

そんな村嶋さんが設立なさったOMURA室内合奏団と共演させて頂くことになり、大変光栄に思います。演奏させて頂くシューベルトのアルペジオーネ・ソナタは非常に有名な作品ですが、弦楽合奏との共演で演奏されるのは日本では今回が初めてではないでしょうか。そういう意味でもチャレンジのし甲斐のある、非常に意義のある公演だと思っています。

大村には何度か伺っておりますが、地元の人々の力がまとまると凄い力を発揮する、東京やロンドンのような大都市にはない特別な雰囲気を感じます。そんな大村で太陽のような存在感で皆を引っ張って新しい事にチャレンジし続ける村嶋さんにもエールを送りたいと思います。5月に伺うのを今から楽しみにしております。



昨年12月開催 OMURA室内合奏団&合唱コンサートのリハーサルの様子

今井信子

ヴィオラパート団員、編集員に今回の公演にあたっての想いや、聴きどころなどを伺いました。



いけだ ふみこ
池田 文子
(ヴィオラ)

ずっと心待ちにしていた今井信子さんとの共演!

ですが近まってくると、おっかない人だったらどうしよう…と心配になってきてYouTubeで検索。インタビューに優しく楽しく答えておられる今井さん発見!ちょっとホッとしました。

その中で「ヴィオラ奏者の性格について」お話しされていたのですが、～真ん中に座っているの(演奏の時ヴァイオリンとチェロの間に)、全体の調和を凄く考えますが、みんなの意見を色々聞きながら判断し、自分は白黒をはっきり言わ

ないのがやり方で、でも最期は自分の好きなようにするんですね～と。成る程～!

演奏の中で、みんなが作りたい音楽をいつも感じ、それを「調和」させようと耳をすます、そしてその中に自分の音楽もちゃんと出していくという「ヴィオラ弾きの仕事」、そんなことができたらどんなに楽しいでしょう!

長い間の、憧れのヴィオラ奏者であった今井さん。今回、ステージで一緒にできることを幸福に思います。

一般的なプロオケには入団試験があり、その楽器の独奏曲とオーケストラタディ(以下オケスタ)を弾かされます。オケスタとはその楽器のオーケストラパートの部分を抜粋で演奏するものです。オケの即戦力になりうるかどうか分かるのです。

テンポを一定に守れるか、速いパッセージを正確に弾きこなせるか、歌心豊

かに演奏できるか、などを採点します。と同時に、他の楽器の方がそのオケスタを聞いて自分のパートを頭の中で歌えるか、きちんと他セクションの動きも理解して演奏しているのか、をチェックされます。

「英雄」交響曲第3楽章。弓を跳ねさせながらppからffまで正確に速いパッセージを弾けるのかとヴィオラのオケスタに出題されます。



ながしま たくお
長嶋 拓生 (ヴィオラ)

5年半程前、佐世保の地で今井信子さんの無伴奏の演奏会がありました。

舞台上に登場された今井さんは、笑顔が素敵で、とてもチャーミングな女性でした。

わあ♡何て素敵なお女性なんだろう!!と思ったのも束の間…今井さんが楽器を構えた瞬間に会場の空気がガラッと変わるスイッチが押されたかのように、凄まじい集中力と美しさに会場が包まれたのを今でも覚えています。

たった45分の短い演奏会でしたが、言

葉にするのが難しい程、本当にその美しさと深みに包まれてあっという間に終わった素晴らしい演奏会でした。

今井さんのヴィオラは時に熱く、時に冷静に、聴く人の心にそっと寄り添って下さいます。

そんな素晴らしい音色や音楽を是非会場でお聴き頂ければと思います。

今井さんが5月の定期演奏会に来て下さるのが私すごく待ち遠しいです!

きっと皆様の心の琴線にも触れること間違いなし!です!!



いけだ ゆき
池田 祐希
(ファゴット)

定期演奏会へお出かけのあなたに!豆知識!!

5月定期で今井信子さんが演奏されるシューベルトの「アルペジジョーネ・ソナタ」。アルペジジョーネ?ソナタ?という方は必見!

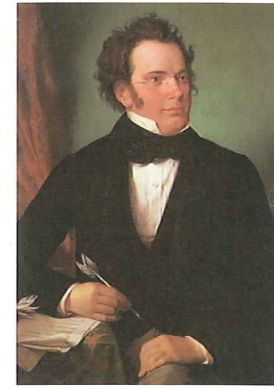
Q1. アルペジジョーネってなに?



今から約200年前ごろに約10年間だけ流行した幻の楽器。形はチェロに似ていて(チェロより少し小さい)、弓を使って演奏するそうです。しかし、弦は6本、ギターのように24のフレットがあり、チェロとギターの特徴を

持っていることから、「ギター・チェロ」とも呼ばれているそうです。

Q2. シューベルトはアルペジジョーネの恩人?



シューベルトが1824年に作曲した「アルペジジョーネ・ソナタ」はアルペジジョーネのために書かれたものでは、いま現存する唯一の作品です。現在では、チェロ、ヴィオラ、コントラバスやギターなどで演奏されることが一般的です。ですが、この作品が現在でも演奏されることがアルペジジョーネという楽器を生かしているのかもしれない。

今回の定期演奏会ではヴィオラによる演奏を聴くことが出来ます。いろんなヴァージョンを聴き比べてみてはいかがでしょうか。

Column

芸術監督だより

今井信子さんとヴィオラ

ヴァイオリンの陰に隠れて地味な存在だったヴィオラに光を当てた今井さん。ヴィオラ奏者として世界的に活躍する今井さん。桐朋学園ではヴァイオリン奏者でした。アメリカのタングルウッド音楽祭で、小澤征爾指揮、ポストン響で聴いた、リヒャルト・シュトラウスの「ドン・キホーテ」で、ヴィオラの音に魅せられ、これこそ自分が目指す音、と転向されたそうです。彼女と初めて会ったのは1972年、プエルトリコ音楽祭での事でした。パブロ・カザルスが指揮するオケの一員でした。その後、シカゴで、フェルメール・クアルテットのヴィオラ奏者として演奏されていたのを聴いています。

それが「神の見えざる手に導かれて」、東京・カザルスホールでの再会となりました。1992年、今井さんの提唱により、ヴィオラを基調とする「ヴィオラスペース」が誕生しました。「ヴィオラの礼賛」「優れたヴィオラ作品の紹介」「若手ヴィオラ奏者の育成」を3本柱に、毎年、様々なプログラムに挑戦し続けているのです。2009年には、ヴィオラ単独の国際コンクールとしてはアジア初、唯一となる「東京国際ヴィオラコンクール」が創設されました。「ヴィオラが、いかに多様性があり、そして「夢」を持っている楽器であるかが実証されたと思っています」今井さんの確言です。

その今井信子さんとOMURA室内合奏団との共演が実現したことは、嬉しい限りです。しかも、その曲、ド布林カ編曲のシューベルトのアルペジジョーネソナタは、通常ピアノ伴奏で演奏されるのですが、弦楽合奏との共演で、日本初演ですから、聴き逃してはいけません。

皆様のご来場お待ちしております。

むらしま すみこ
村嶋 寿深子

私は東京在住でしたが、15年前、夫の仕事の関係で長崎に住むことになり、その2年後に合奏団が誕生しました。村嶋さんとは東京で共通の友人を介して一度お会いしており、最初のメンバーの一人としてお誘い頂いたのが私と合奏団とのご縁の始まりです。本物志向の村嶋芸術監督のおかげで、一流の音楽家と共にアンサンブルをする喜び、音楽の深さを改めて知ることになりました。

少し前になりますが、印象的だった出来事があります。二人のヴァイオリンを弾く高校生に私たち大人も加わって、弦楽四重奏のレッスンを受けていた時のことです。「守破離って知っている？」と松原先生が、ジュニアの生徒に訊ねられました。それは日本古来から伝わるプロフェッショナル論で、武道や禅などの学びのプロセスだとのこと。「守」は師の教えを守って励むこと、「破」はそこから進んで自分流にアレンジを加えていく過程、

「離」は型や教えから離れて独自の個性を表現すること——音楽を演奏するというのはそこまで究めることなのだ、ハッとさせられました。

合奏団も13年目に入り、メンバーも増え、充実した演奏が出来るようになりました。「OMURA 室内合奏団の音」も出来てきたように思います。これもひとえに合奏団の生みの親である村嶋芸術監督と迫先生、松原先生の熱意あるご指導あつてのこと、ただ感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、合奏団と共に成長していきたいと思っています。



みつた まさこ
光田 聡子 (チェロ)

Mi Chiamo

ミ・キアモ

3つの質問で メンバーを知ろう!

※ミ・キアモとは、イタリア語で「私の名前は、〇〇〇」の意。

- ① 自己紹介を自由におこなって!
- ② ひそかなマイブーム
- ③ 最後の一言



フルート

はますな ゆみこ
濱砂由美子

- ① 入団当時より6キロもふっくらしてすっかり中年の魅力?の浜砂です。お楽しみのお客様に「フルートに新しい人が入ったと思ってよく見ると浜砂さんだっわー」と言われる始末。5月定期までには少しは痩せる?ご注目!
- ② もうすぐ2歳になる息子(かわいい!&憎らしい♥)
- ③ 結成11年目のOMURAが一丸となってゆれどけ本気でお客様に向き合えるのか、是非会場でお確かめ下さい!

① 第2ヴァイオリンを演奏しています、東京ヤクルトスワローズ、Vファーレン長崎のファンの中原大幾です。昨年はヤクルトの14年ぶりのセリーグ優勝に泣いて喜びました。(ToT)

② 私の楽しみは、週1パッティングセンターで120球打ち込む事です。今年は130*が打てるようにしたいと思っています。目標はスイングスピード158*です。(笑)

③ 年末にヴァイオリンリサイタルをします。長崎ではあまり演奏されない曲を中心に演奏します。日程はまた後日(^_^)



ヴァイオリン

なかはら もとき
中原 大幾

ご支援ありがとうございます (4月25日現在) 法人会員数 67件(-1件) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。
個人会員数 179人(±0人) 周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお誘い下さい。

編集後記

大学生の頃、オケの授業でヴィオラを初めて弾いたのですが、記譜や奏法になかなか慣れず必死に弾いていたことを思い出します(^_^)ヴァイオリンとヴィオラ両方弾ける方、尊敬します♪(さあり)

5月の定期演奏会、開演前のロビーコンサートで木管八重奏を行います♪開場して5分後ぐらいに演奏しますので、こちらも沢山の方に聴いて頂けると嬉しいです(^ω^)(いけっち)

昨年の東京公演から約1年。その時の演奏をテレビマンユニオンチャンネルで一部視聴することが出来ます!テレビマンユニオンチャンネルで検索してみてください! (ひろし)